【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2001-246700(P2001-246700A)
【公開日】平成13年9月11日(2001.9.11)
【出願番号】特願2000-308626(P2000-308626)
【国際特許分類第７版】
　Ｂ３２Ｂ　27/00
　Ｂ４２Ｄ　15/10
　Ｂ４４Ｃ　 1/165
// Ｂ４１Ｊ　29/00
【ＦＩ】
　Ｂ３２Ｂ　27/00　　Ｚ
　Ｂ４２Ｄ　15/10　　５０１Ｈ
　Ｂ４４Ｃ　 1/165　　Ｋ
　Ｂ４１Ｊ　29/00　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成16年6月1日(2004.6.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
　カード基材供給部１０には、カード使用者の個人情報を書き込むために予め枚葉状にカットされた複数枚のカード基材５０が、顔写真を記録する面を上に向けてストックされている。この例では、カード基材５０が支持体５１と受像層５２からなり、このカード基材５０は１枚ずつカード基材供給部１０から所定のタイミングで自動供給される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０２】
　本発明における平均粒子径とは、層の表面を電子顕微鏡観察により直接測定した値である。フィラーの平均粒子径と層の膜厚の関係は、充填材の粒子径が粒子含有層の膜厚よりも小さいことが特に好ましい。フィラーを層中に添加する方法としては、層を構成する他の成分中に直接分散せしめてもよいし、適当な分散媒に分散した充填材を添加してもよい。本発明においては、離型層中に無機又は有機粒子を含む転写箔を表し、その関係が平均粒径／離型層の膜厚＊１００＝１．０～４００で有ることが好ましく、４００より大きいと転写した際に転写した基材の表面上に粒子が残存し、外観が劣化し問題である。１．０より低い場合は、転写し剥離した際に転写箔と基材での剥離時に基材側に余分な転写部が残存してしまい問題である（以下；バリと称する）。
　本発明では、離型層中に無機又は有機粒子を含む転写箔であって、その関係が平均粒径／離型層の膜厚＊１００＝１．０～４００で有ることによりバリの減少が発見された。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１１

【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１１】
本発明で特に好ましいものは、平均粒子型が０．５μｍ以下の微粒子充填材である。本発明における平均粒子径とは、層の表面を電子顕微鏡観察により直接測定した値である。フィラーの平均粒子径と層の膜厚の関係は、充填材の粒子径が粒子含有層の膜厚よりも小さいことが特に好ましい。フィラーを層中に添加する方法としては、層を構成する他の成分中に直接分散せしめてもよいし、適当な分散媒に分散した充填材を添加してもよい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２２】
実施例１
前記転写箔１が転写された前記受像体上に前記紫外線硬化樹脂含有塗布液を２０ｇ／ｍ$^2$の塗布量になるように特定の地模様を持つグラビアロールコーターにより塗布し、下記の硬化条件にて紫外線硬化樹脂含有塗布液（図１５の表１のバインダー樹脂層１）を硬化させて紫外線硬化保護層を形成した。
【手続補正５】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１】

